

常田のりこ政策発表

キャッチフレーズ

みんな みんな幸せ ～誰もが住みたい、訪れたい飯山市～

基本理念

みんなが幸せを実感できる飯山市へ

住んでいる人も、訪れる人も、子どもも若者も高齢者も、障がいのある人もない人も、誰もが安心して暮らし、自分らしく輝ける飯山市をめざします。

4つの重点政策

- 1 子育て支援・教育の充実
- 2 高齢者・障がい者支援の充実
- 3 人口減少対策の推進
- 4 地域経済の活性化

プラス

♥ 未来に責任を持つ持続可能な飯山市へ（リーフレットにない）

「実現する3つの約束」

- ①市民との対話を大切にします
- ②現場の声を市政に反映します
- ③将来世代に責任ある財政運営を行います

4つの重点施策の具体例

- 1 子育て支援・教育の充実

「子どもの笑顔は地域の未来！ 子育て・教育に投資する飯山市へ」

子ども達が安心して育ち、学べる環境づくりを進めます。

安心・安全な地産の有機給食（オーガニック給食）の導入を進め子どもたちの体と豊かな心を育みます。

子育て世代を応援し「子育てするなら飯山市」をめざします

具体的な公約

- ① 保育の質を高める保育園のあり方を考えます

保育園の統合については、子どもたちにとってより良い保育環境とは何かを最優先に考えます。保護者・保育士・地域の皆さんと丁寧に対話し、集団での遊びや多様な人との関わり、保育士の配置など、保育の質を高める方向性を決めます。

② 子どもの社会性と学びを育てる学校づくりを進めます

城南中学校区の 3 小学校について、子どもたちが多様な仲間と関わり、協力しながら学ぶ環境を整えるため、子ども・保護者・教職員・地域の声を聴き、早期に方向性を決定します。

統合を進める場合も、通学、安全、地域とのつながりなどを十分に検討し、子どもたちにとって最善の学校づくりを進めます。

③ 飯山ならではの「有機（オーガニック）給食」を進めます

保育園・幼稚園・小中学校で、安心・安全な地元農産物を使った有機給食の提供を進めます。

有機農業者の育成・募集、農業者と学校・栄養士との連携、地域での認証制度などを検討し、「育てて、食べて、学ぶ」食育につなげます。オーガニックビレッジ宣言も行います。

④ 子どもたちの居場所を増やします

学校に行きにくい子どもたちが、空き校舎など地域の施設を活用し、安心して過ごせる居場所をつくります。

また、給食センターなど既存施設の活用も検討し、子どもたちの出かける場の選択肢の一つとしての地域の居場所づくりを進めます。

⑤ 長期休暇の子どもの昼食を支えます

すべての児童クラブ等で、夏休みなどの長期休暇に希望する家庭が利用できる弁当の提供を進めます。保護者の負担を軽減し、子どもたちの栄養面にも配慮します。

⑥ 医療的ケア児を地域全体で支えます

医療的ケアが必要な子どもとその家族が、住んでいる地域にかかわらず安心して保育・教育を受けられるよう、北信地域の市町村が連携した支援体制をつくります。

⑦ 給食費の負担を軽減し、子育て世帯を応援します

給食の質を高めるとともに、財源を確保しながら小中学校の給食費の完全無償化をめざします。子育て世帯の経済的負担を軽減し、「子育てするなら飯山市」と感じてもらえる環境をつくります。

⑧ 子育てと仕事を両立できる職場づくりを進めます

男性の育児休業取得を促進するとともに、誰もが安心して産前産後休暇・育児休業を取得できる職場環境をつくります。

休業者の仕事をカバーする職員への支援など、**「休む人も、支える人も大切にする仕組み」**を検討します。（松本市役所で実施）

⑨ 「子育てするなら飯山市」を実現します

妊娠・出産から子育て、教育まで切れ目のない支援を充実させ、子育て世代の声を市政に反映しま

す。

子どもを育てることが喜びとなり、子どもの成長を地域みんなで応援できる飯山市をめざします。

2 高齢者・障がい者支援の充実

安心して暮らし続けられる飯山市へ

誰もが住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らし続けられる飯山市をつくります。

医療・介護・福祉を充実させるとともに、地域で支え合い、孤独や孤立を防ぐ仕組みをつくります。

具体的な公約

① 市民の財産と権利を守ります

北信広域市町村と連携して「市民後見人」を育成し、判断能力が低下した高齢者や障がい者の財産・権利を身近な地域で守る仕組みを充実させます。

② 飯山赤十字病院を市民みんなで支えます

飯山赤十字病院を地域医療の拠点として守り育てるため、「市民応援プロジェクト」を立ち上げ、市民ボランティアなどによる支援の輪を広げます。また、人間ドックの利用促進など、病院の経営を市民とともに支える取り組みを進めます。

③ 地域医療を守るため、医師・医療人材を確保します

医師確保に取り組むとともに、希望者を対象とした医学生への奨学金制度の再開を検討します。将来、飯山の地域医療を担う人材を育てます。

④ 医療・介護・福祉の人材確保を応援します

医療・介護・福祉の仕事に就く人を増やすため、現場で働く人から仲間を紹介してもらう「仲間への声かけ応援金」など、人材確保につながる新たな支援制度を創設します。

⑤ 高齢者の移動をもっと便利にします

相乗りタクシーなどの利用実態を検証し、回数制限の緩和など、買い物・通院・社会参加に利用しやすい移動支援へさらに充実させます。

⑥ 障がいのある人の「働く・参加する」を応援します

農業と福祉、企業をつなぐ「農福連携」を進め、障がいのある人が地域で働き、役割を持ち、社会参加できる機会を増やします。

⑦ 孤独・孤立を防ぎ、地域の居場所を増やします

誰にも相談できず孤独・孤立にならないよう、地域の居場所づくりを進めるとともに、人と人をつ

なく「孤独・孤立対策コーディネーター」の配置を進めます。

⑧ 認知症の早期発見・予防を応援します

認知症の早期発見や予防につなげるため、脳ドック等の受診を支援する制度を創設します。健康づくりや社会参加とあわせて、健康寿命の延伸をめざします。

⑨ 「運動から健康づくり」を進めます

新たな大型施設を建設するのではなく、現在ある保健センターの機器や民間の運動施設などを有効活用し、誰もが気軽に運動できる環境をつくります。

⑩ 介護する家族を支えます

介護する家族の心身の負担を軽減するため、ショートステイなどのレスパイト事業を高齢者だけでなく障がい児・者にも積極的に活用できるよう支援します。

⑪ 福祉・介護の現場の負担を減らします

介護・福祉事業所の大きな負担となっている記録・事務作業について、AI やデジタル技術を活用し、職員が利用者への支援に力を注げる環境をつくります。

3 人口減少対策の推進

若者が住み続けたい飯山市へ

人口減少を食い止めるためには、若者が「飯山で暮らしたい」「飯山で働きたい」「飯山に帰ってきたい」と思えるまちをつくるのが大切です。

若者の暮らし、仕事、つながりを支え、飯山に住み続ける人、帰ってくる人、関わり続ける人を増やします。

具体的な公約

① 奨学生の就職・定住を応援します

飯山市出身者などが飯山市内で就職・定住することを後押しするため、「奨学生就職応援金」を年間10万円から20万円へ拡大します。

② 若者の家賃負担を軽減します

市内の民間アパートなどに住む若者を対象とした家賃補助制度を創設し、若者が飯山で暮らし始めやすい環境をつくります。

③ 「つながる飯山」をつくります

飯山を離れて暮らす若者や同級生とのつながりを維持し、将来の U ターンや関係人口につなげるため、「同窓会応援事業」を創設します。

④ 若者の「働く・挑戦する」を応援します

飯山商工会議所などと連携し、企業と若者のマッチング、就職情報の発信、創業・起業など、若者が飯山で働き、挑戦できる機会を増やします。

⑤ 「帰ってきたい飯山」をつくります

進学や就職で飯山を離れた若者にも飯山とのつながりを持ち続けてもらい、U ターンや二地域居住、関係人口の増加につなげます。

4 地域経済の活性化

活力ある地域経済を育む飯山市へ

飯山には、豊かな農地、雪、自然、食、観光資源があります。

「ないものを求める」のではなく、「飯山にあるもの」を磨き上げ、農業・観光・商工業をつなげて、地域でお金が回り、働く場所が生まれる飯山市をつくります。

具体的な公約

① 飯山の有機農業を育てます

JA、農業者、学校、関係団体などと連携し、有機農業を地域の農業政策の一つとして推進します。学校給食などとも連携し、地産地消の拡大を目指します。

② 「稼げる農業」を応援します

農産物の高付加価値化、販路開拓、ブランド化など、農業者の所得向上につながる支援策を検討し、持続可能な農業経営を応援します。

③ 遊休農地を「人を呼ぶ農地」に変えます

遊休農地を活用して、オーガニック市民農園、滞在型市民農園、レンタル農園などを整備し、都市住民が飯山に通い、滞在し、地域とつながる「関係人口」を増やします。

④ 飯山ブランドを市民と外から来る人と一緒につくります

観光局・観光協会、農業者、商工業者、市民、観光客などと連携し、「飯山ならではの」魅力を発掘・発信します。外からの視点も取り入れながら、飯山ブランドをさらに磨きます。

⑤ 飯山の 6 次産業化を進めます

農業・加工・販売・観光をつなげ、農産物の付加価値を高めます。雪室など飯山ならではの資源を活

用した商品開発・事業化を研究し、地域に新たな仕事と収入を生み出します。

⑥ インバウンドと市民生活の調和を図ります

外国人観光客を呼び込むだけでなく、市民生活とのバランスを大切にします。日本語教室や文化交流の場をつくり、外国人住民・観光客と市民が互いの文化を理解できる多文化共生の地域づくりを進めます。

5 未来に責任を持つ市政

持続可能な飯山市へ

人口が減少する時代だからこそ、これまでと同じやり方を続けるのではなく、行政の仕事や財政、公共インフラを見直し、将来世代に責任を持つ市政へ転換します。

① 市民の力を地域づくりに生かします

地域活動、健康づくり、ボランティア活動など、市民が自発的に参加したくなる仕組みをつくり、活動に応じたポイント制度などを導入します。

② 水道・下水道を将来にわたって守ります

老朽化する水道・下水道施設の更新、災害時の対応、専門職員不足などの課題に対応するため、北信地域での広域連携・広域化について研究を進めます。

③ 森林を未来につなげます

森林環境税を活用し、子どもの頃から森林に親しむ機会をつくれます。1歳6か月児健診などの機会に木のおもちゃを贈るなど、親子で木や森林に関心を持つきっかけをつくれます。

④ 財政と行政事業を見直します

限られた財源を本当に必要な施策に重点配分するため、既存事業の効果を検証し、必要性の低下した事業は見直します。新たな事業は、原則3年を目安に効果を検証し、継続・拡充・見直しを判断します。

⑤ 安全な道路・橋を未来につなげます

歩道がなく、観光や災害時の安全性にも課題がある大関橋について、近隣自治体と連携し、早期の架け替えに向けて国・県へ働きかけます。

⑥ 人口減少時代に対応できる市役所へ変えます

人口減少や行政課題の変化に迅速に対応できるよう、市役所の組織・人員配置・業務のあり方を見直します。デジタル技術やAIも活用し、職員が市民サービスに力を注げる市役所をめざします。